



## 「名前を付ける」ということ

3月3日に生まれた双子の子ヤギ。

臨時休校が明け、全員がそろったところで、ようやく子ヤギたちの名前を考え始めました。「元気に育てほしいな」「3匹で仲良くくらしてほしい」「お兄ちゃんはオスだから強く、妹は優しくなってほしい」子どもたちから出てくる子ヤギたちへの願いを聞いていると、どれもあたたかい気持ちになるものばかりです。そして、そんな願いをイメージしながら、「では、いざ名前の候補を」と話し合っていきます。すると、体の色や、生まれた日にち由来する候補が続き、その前に出された「願い」とは違ったものばかりが出てきました。A君は、それに対して「名前ってさ、そうやって体の色とか、生まれた日にちとかで決めてもいいの?」と、疑問を投げかけます。その言葉を聞いて話し合いの空気が少し重くなりました。私自身も、「確かに安易に決めるのはまずいよな」と思いつつ、トカちゃんの名前のことが浮かび、つい、自分の気持ちを話してしまいました。

「でもさ、先生は『トカちゃん』って、名前、好きだよ。『トカちゃん』という言葉そのものには願いは見えないかもしれないし、『トカラヤギだから』『10日生まれだから』、って理由で、みんなと決めただけど、トカちゃんには元気でいてほしいし、楽しく過ごしてほしいって願いはあるよ」

すると、子どもたちからは「私もトカちゃんって名前、好きだよ」「いい名前だと思う」と声が上がります。続けてMさんが「トカちゃんを大事にすることが大切で、「願う」とか、「願い」の名前を付けることが大事じゃなくて、そうやって自分がやること(行動していくこと)」が大事なんだと思う」と語ります。「去年も生活の話し合いの中でM君が『言うだけじゃダメ』、って言ったことに繋がると思う」とHさん。

たしかにこのタイミングで、名前を付けていくわけですが、同時に自分たちの日々のお世話の積み重ねが、それ以上に大切なんだということが、名前について話し合うことを通して、改めて見えてきました。

そして、子どもたちは、その時間にお兄ちゃんヤギを「トット」、妹ヤギを「ララ」と名付けていきました。

トカちゃんは、この半年間で子どもたちに何度も名前を呼ばれ、大切にされる中で、「トカちゃん」というヤギに「なっていった」ように思います。トット、とララも、トカちゃんと一緒に子どもたちに大切にされながら、毎日の暮らしを重ねていく中で、「トット」「ララ」に「なっていく」のではないかと、名前について考えることで、これからの暮らしが、さらに楽しみになっていきました。

